

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構第12回臨時総会議事録

I. 日 時 令和 6 年 3 月 22 日（金）13 時 00 分～15 時 00 分

II. 場 所 医療系大学間共用試験実施評価機構会議室
東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 6F

III. 出 席 者 会 員 畠山鎮次ほか 110 名（内訳別紙出席者名簿のとおり）
理事長 栗原 敏（議事録作成者）
理 事 江藤一洋，齋藤宣彦，高木 康（Web），斎藤隆史，三谷昌平
清水貴子（Web），河野文昭（Web），新田 浩，伊藤俊之
仁田善雄，石原 慎（Web），山口育子
監 事 村田貴司，鈴木裕子（Web）
陪 席 葛西一貴

IV. 審議事項

1. 審議事項

第1号議案 令和5年度補正予算（案）について
第2号議案 令和6年度事業計画（案）について
第3号議案 臨時会費の徴収について（案）
第4号議案 令和6年度収支予算（案）について
第5号議案 会費規程の一部改正（案）について

2. 報告事項

（1）共用試験実施機関の指定について
（2）共用試験の課題について
（3）共用試験成績について

3. 配付資料

資料番号なし 第10回定時総会議事録（案）
資料1 令和5年度収支補正予算書（案）
資料2 令和6年度事業計画書（案）
資料3 臨時会費の徴収について（案）
資料4-1 令和6年度収支予算書（案）
資料4-2 令和6年度収支予算資金調達及び設備投資の見込み（案）
資料4-3 令和6年度収支予算書内訳表（案）
資料5 会費規程の一部改正（案）新旧対照表

報告資料1 共用試験実施機関指定告示
報告資料2-1 医学生 CBT 課題点報告
報告資料2-2 医学系 OSCE の課題点

- 報告資料 2－3 歯学生 CBT の公的化に向けての課題と対応状況について
- 報告資料 2－4 歯学生共用試験 OSCE における課題
- 報告資料 2－5 歯学生 PX 実施管理委員会課題
- 報告資料 3－1 共用試験 2023 医学生 CBT 結果表
- 報告資料 3－2 共用試験 2024 前期歯学生 CBT 結果表
- 報告資料 3－3 共用試験 2023 医学生臨床実習前 OSCE 結果表
- 報告資料 3－4 共用試験 2023 後期＋共用試験 2024 前期歯学生臨床実習前 OSCE 結果表
- 報告資料 3－5 共用試験 2023 医学系臨床実習後 OSCE 結果表
- 報告資料 3－6 共用試験 2023 歯学系 Post-CC PX 結果表

V. 議事の経過の要領及び結果

栗原議長から定足数の確認について付議、松尾総務部長から正会員 111 名のうち、本日の出席者 40 名（うち Web 出席者 33 名）、委任状を提出した者 52 名（うち理事長（議長）に委任した者 40 名、代理人に委任した者 12 名）、議決権を行使した者 19 名、合計 111 名が出席し、定款第 19 条第 1 項の規定による総会の定足数を満たしている旨の報告があった。

続いて、栗原議長から第 10 回定時総会（令和 5 年 6 月 28 日開催）の議事録（案）の確認について付議、審議の結果、全員異議なく、原案どおり確認された。

引き続き、栗原議長から議事録署名人 1 名の選出について付議、審議の結果、小玉正太（福岡大学医学部長）が選出された。

1. 第 1 号議案 令和 5 年度補正予算（案）について

栗原議長から本件について付議、迫田事務局長から資料 1「令和 5 年度収支補正予算書（案）」に基づき説明があり、審議の結果、全員異議なく、原案どおり承認された。

2. 第 2 号議案 令和 6 年度事業計画（案）について

栗原議長から本件について付議、齋藤副理事長から資料 2「令和 6 年度事業計画書（案）」に基づき説明があり、審議の結果、全員異議なく、原案どおり承認された。

審議の過程における主な質問と回答の要旨は以下のとおり。

質 問	回 答
事務所移転の検討の継続について、移転による財務状況への影響を説明されたい。（岡崎新潟大学医学部長代理人）	いくつかのビルを視察した。広くて良い所もあるが、財務的に難しい。（齋藤副理事長） 初期投資や継続的な家賃の負担を考えると、早期の移転は厳しいが、検討だけは継続したい。（迫田事務局長）

3. 第 3 号議案 臨時会費の徴収について（案）

栗原議長から本件について付議、迫田事務局長から資料 3「臨時会費の徴収について（案）」及び説明資料に基づき説明があり、審議の結果、継続して検討を行うこととされた。

審議の過程における主な質問と回答の要旨は以下のとおり。

質 問	回 答
3月の繁忙期に十分な検討もできない中、会費増額の組織決定を提案するのは、不適切ではないか。現実的な経営再建計画をステークホルダーに示し、予算に見合う事業内容へと取組全体を抜本的に見直してはどうか。(伊野岡山大学医学部長代理人)	大学が厳しい状況にあることは理解している。臨床実習後共用試験については、その受験料を決定した際、令和7年度に見直すこととされている。受験料で対応することについては、学生の負担が増えることから、関係省庁の理解が得られるか難しい。(迫田事務局長)
臨時会費をやめる令和11年度において1億5千万円の収支改善がなされるとは思えない。令和11年度以降の見通しも示した上で、対策を立てるべき。(角田防衛医科大学学校長代理人)	基本的に機構は会費から成り立っている。その上で会費が適切に運用されているか、その設定が会員の了解の範囲内にあるかが問題である。受験料を決めたとき、もう少し高額な受験料を提案したが、AJMCから学生負担を減らせないかという発言があり今の額となった。経費削減については、講習会のWeb化など進めている。事務所については、アクセスが良い現地にあるからこそ委員会や講習会が円滑に開催できるものと考ええる。地方の利便性の悪い場所への移転は現実的ではない。共用試験は、機構が試験実施機関として認められた公的な試験であるため、公平性や信頼性が担保された試験制度でなければならない。そのため、例えば、認定評価者や認定標準模擬患者の養成が必要であり、それに注力した結果、経費が増えている。本日採決はしないが、発言した会員は発言した責任もあると考えるので、具体的かつ現実的な改善案を寄せてほしい。それを参考に改善策を検討する。 (栗原理事長)
課題数が増えた場合の必要経費やOSCEセンターの設置など今後の事業費増について検討されていない。受験料値上げの際も予算の見込は提示されていなかった。精緻な計画を事前に作成すべき。(山本京都大学医学部長代理人)	
Postで赤字になっているのはどういうことか。医科と歯科が1年ずれているにも関わらず1年前にこの状況が見えていなかったのか。身の丈に合った公的化にしていれば、ここまでの負荷はかからずに済んだ、赤字覚悟で進めていたのか。公的化を請け負った機構は、会員・非会員の区別なく試験を受けさせる必要があることを認識すべき。(藤井日本歯科大学学長)	
臨時会費の理由となっている1億2,300万円の根拠は何か。(岡崎新潟大学医学部長代理人)	
今回議論する機会が、非常に短時間になったことを説明されたい。(大原岡山大学歯学部長)	
合意形成ができていない。東京以外の田舎に引っ越すなど支出を減らす努力をしてほしい。受験料を上げることや、お金の集め方として大学が受験料を徴収し、運営費交付金から出すような形も検討してほしい。(石井東北大学医学部長)	

急なアナウンスで学内の十分な合意形成が得られていない。事務所は、多くの企業がコロナ禍でリモートでの対応や東京を離れている中、何らかの対応ができるのではないかと。歯学系の受験料38,000円に関しても学部内で賛同を得られていない。学生の負担が増え続けるのは危惧がある。(井上新潟大学歯学部長)	日本私立医科大学協会の理事として、理事会において機構の状況を説明し負担が増えることへの理解を求めている。国立大学医学部長会議においても、齋藤副理事長と出席しOSCEをやる場合には相当の経費を要することを説明している。AJMCには機構の委員となっている先生方を通じて概略は理解いただいている。また、厚労省や文科省に対しては、医政局長、医事課長、医学教育課長に対して、公的試験として経費が掛かることなどを説明し、国としての支援を要望している。機構は共用試験実施機関として認められているが、各大学は財務状況が厳しい中、教育予算の捻出に苦慮しており、会費制で公的な試験を運営することについて十分検討する必要がある。可能な道を会員の皆さんと共に考えて行きたい。(栗原理事長)
令和6年度予算の旅費交通費が1億6千万円とあるが、認定講習会等の見直しでは3千万円しか減らない。見直しが足りないのではないかと。(一戸東京歯科大学学長)	
十分な改善案が示されていない、発言されていない大学にも反対の意見が多くあるものと思う。丁寧に採決を判断してほしい。(西岡徳島大学医学部長)	
進め方については慎重にお願いしたい。学内コンセンサスを得ないと運営費交付金を倍に使用する理解が得られない。(上野山形大学医学部長)	
総会は年に2回しかない、事前に関連団体と調整することも必要ではないか。方略とタイミングが悪すぎる。(藤井日本歯科大学学長)	
機構の委員としての意見であるが、AWSが何に利用されているかなど、どのようなことで費用圧縮が可能か判断できる資料を示してほしい。(山本京都大学医学部長代理人)	

4. 第4号議案 令和6年度収支予算(案)について

栗原議長から本件について付議、迫田事務局長から資料4-1「令和6年度収支予算書(案)」(臨時会費を計上しない資料へ差し替え)、資料4-2「令和6年度収支予算資金調達及び設備投資の見込み(案)」及び資料4-3「令和6年度収支予算書内訳表(案)」(臨時会費を計上しない資料へ差し替え)に基づき説明があり、審議の結果、全員異議なく、原案どおり承認された。

審議の過程における主な質問と回答の要旨は以下のとおり。

質 問	回 答
収支予算（案）において、役員報酬と給与手当が減額されているが、臨時雇賃金が増加し相殺されている。三つの費用の関係を説明されたい。旅費交通費と委託費が増加している点についても説明されたい。（岡崎新潟大学医学部長代理人）	管理費にも役員報酬を計上しており合計で約5百万円を減額している。今年度職員が5人退職したため派遣職員で補う必要があり、臨時雇賃金が増加している。旅費交通費の増は歯学系の公的化に伴う評価者等の人員増が要因であり、値上げした受験料と見合っている。委託費の増は令和5年度実績の増加等に寄るものである。（迫田事務局長）

5. 第5号議案 会費規程の一部改正（案）について

栗原議長から本件について付議、迫田事務局長から資料5「会費規程の一部改正（案）新旧対照表」に基づき説明があり、審議の結果、全員異議なく、原案どおり承認された。

VI. 報告事項

（1）共用試験実施機関の指定について

栗原理事長から報告資料1「共用試験実施機関指定告示」に基づき、令和5年12月27日付けで指定された旨報告があった。

（2）共用試験の課題について

1. 医学生 CBT の課題について

三谷委員長から報告資料2-1「医学生 CBT 課題点報告」に基づき報告があった。

2. 医学生臨床実習（前・後）OSCE の課題について

伊藤委員長から報告資料2-2「医学系 OSCE の課題点」に基づき報告があった。

3. 歯学生 CBT の課題について

斎藤委員長から報告資料2-3「歯学生 CBT の公的化に向けての課題と対応状況について」に基づき報告があった。

4. 歯学生 Pre-CC OSCE の課題について

葛西委員長から報告資料2-4「歯学生共用試験 OSCE における課題」に基づき報告があった。

報告後の主な質問と回答の要旨は以下のとおり。

質 問	回 答
医学系は、医学教育に携わっている模擬患者の方が、当該大学のOSCEも担当することについて検討するとのことだが、医学系、歯学系ですり合わせるのか。(大原岡山大学歯学部長)	歯学系では、当該年度の教育に関与したSPさんが当該年度同じ学生の試験は遠慮願うことで、公的化6年度は運用する。(葛西委員長) 医学系では、SPさんが少ないため、教育と試験両方担当いただかないと回らないという現実がある。本来避けるべきとの考えもあるが、実情を踏まえて検討することになった。(伊藤委員長)

5. 歯学生 Post-CC PX の課題について

江藤副理事長から報告資料2-5「歯学生 PX 実施管理委員会課題」に基づき報告があった。

(3) 共用試験成績について

仁田学術顧問から報告資料3-1「共用試験2023医学生 CBT 結果表」、報告資料3-2「共用試験2024前期歯学生 CBT 結果表」、報告資料3-3「共用試験2023医学生臨床実習前 OSCE 結果表」、報告資料3-4「共用試験2023後期+共用試験2024前期歯学生臨床実習前 OSCE 結果表」、報告資料3-5「共用試験2023医学系臨床実習後 OSCE 結果表」及び報告資料3-6「共用試験2023歯学系 Post-CC PX 結果表」に基づき報告があった。

(4) その他

村田監事から第3号議案について以下のとおり発言があった。

この議論は最終的には、医学教育、歯学教育に対する国民の負託に大学がどのように対応するかどうかの議論そのものだと理解している。2001年当時、大学人が主体的に最初のモデルコアカリキュラムを作った。文科省の医学教育課は、資金面も含め、それを強力にサポートした。現在CATOが運用している共用試験CBTの体系は、この時の活動を踏まえたもので、従前のモデルコアカリキュラムに対応している。

今回改定されたモデルコアカリキュラムは文科省が作ったものだが、表現を含め従前のモデルコアカリキュラムとの対応が必ずしも十分考慮されたものにはなっていない。このため、CATOが運用している共用試験CBTのシステムをアジャストする作業が必要となり大幅にコストが掛かる。

他方、CBTやOSCEが公的化され、その公的化された体制の中でしっかりした質の保証を行うためには、評価者や模擬患者の養成など投入しなければならない資源が大幅に増える。公的化された試験の質を確保することは、我が国の医学教育、歯学教育のみならず医療そのものへの国民の負託に応えるために不可欠であることは、異論がないだろう。これは大学人全体で共有し、自分ごととして対処しなければならない問題である。またそれは、公的化の趣旨を実質的に支えるものであることは、明らかだ。

大学人の善意で進められてきた共用試験の活動だが、いつの間にか国の意向でコストが掛か

るようになり，そのしわ寄せが逆に共用試験の体系，その実質的な運用を担うCATOに来ている。CATOも経費削減にしっかり取り組む必要があるが，それだけでは済まない状況は国が作ったものである。CATOの持続可能性が問題になりかねない状況は早急に回避すべきである。厚労省，文科省は，具体的な資金投入も含めて連携してこの状況解消に対処していただきたい。

以上、監事の立場として強く申し上げたい。

また，大原岡山大学歯学部長から臨時総会の開催時期について考慮してほしいとの要望があった。

最後に栗原理事長から，理事会と会員は一体であり対立関係にあるのではない。会員の代表として様々な提案をしていることを理解してほしい。今後ともご協力をいただきたいとの発言があった。

以上をもって議事は全て終了し，議長は15時00分閉会を宣し，解散した。

令和 6年 3月22日

議 長 栗 原 敏 (印)

理 事 江 藤 一 洋 (印)

議事録署名人 小 玉 正 太 (印)

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構第12回臨時総会出席者名簿

出席者（40名うちWeb出席33名）

東北大学医学部長	石 井 直 人 (Web)
山形大学医学部長	上 野 義 之 (Web)
信州大学医学部長	奥 山 隆 平 (Web)
岐阜大学医学部長	山 口 瞬 (Web)
三重大学医学部長	堀 浩 樹 (Web)
滋賀医科大学長	上 本 伸 二 (Web)
島根大学医学部長	石 原 俊 治 (Web)
徳島大学医学部長	西 岡 安 彦 (Web)
長崎大学医学部長	池 松 和 哉
熊本大学医学部長	尾 池 雄 一 (Web)
大分大学医学部長	猪 股 雅 史 (Web)
鹿児島大学医学部長	大 脇 哲 洋 (Web)
琉球大学医学部長	筒 井 正 人 (Web)
福島県立医科大学医学部長	藤 森 敬 也 (Web)
横浜市立大学医学部長	寺 内 康 夫 (Web)
京都府立医科大学長	夜 久 均 (Web)
大阪公立大学医学部長	河 田 則 文 (Web)
岩手医科大学医学部長	佐々木 真 理 (Web)
獨協医科大学医学部長	種 市 洋 (Web)
埼玉医科大学医学部長	森 茂 久 (Web)
東京慈恵会医科大学長	松 藤 千 弥 (Web)
聖マリアンナ医科大学長	北 川 博 昭 (Web)
大阪医科薬科大学医学部長	内 山 和 久 (Web)
兵庫医科大学長	鈴 木 敬一郎 (Web)
川崎医科大学長	砂 田 芳 秀 (Web)
久留米大学医学部長	石 竹 達 也 (Web)
福岡大学医学部長	小 玉 正 太
東北医科薬科大学医学部長	小 澤 浩 司 (Web)
国際医療福祉大学医学部長	坂 元 享 宇 (Web)
北海道医療大学歯学部長	古 市 保 志 (Web)
北海道大学歯学部長	網 塚 憲 生 (Web)
岩手医科大学歯学部長	小 林 琢 也 (Web)
東北大学歯学部長	小 坂 健 (Web)
東京歯科大学長	一 戸 達 也 (Web)
神奈川歯科大学長	櫻 井 孝
新潟大学歯学部長	井 上 誠 (Web)
日本歯科大学長（新潟生命歯学部）	藤 井 一 維

岡山大学歯学部長
九州歯科大学長
奥羽大学歯学部長

大 原 直 也
西 原 達 次
瀬 川 洋

理事長に委任した者（35名）

北海道大学医学部長
弘前大学医学部長
筑波大学医学群長
群馬大学医学部長
千葉大学医学部長
東京大学医学部長
東京医科歯科大学医学部長
浜松医科大学長
名古屋大学医学部長
九州大学医学部長
佐賀大学医学部長
奈良県立医科大学長
和歌山県立医科大学医学部長
自治医科大学長
杏林大学医学部長
慶應義塾大学医学部長
昭和大学医学部長
帝京大学医学部長
日本大学医学部長
日本医科大学長
北里大学医学部長
金沢医科大学医学部長
愛知医科大学医学部長
藤田医科大学医学部長
関西医科大学長
近畿大学医学部長
産業医科大学医学部長
鶴見大学歯学部長
朝日大学歯学部長
大阪歯科大学長
広島大学歯学部長
九州大学歯学部長
福岡歯科大学長
長崎大学歯学部長
鹿児島大学歯学部長

畠 山 鎮 次
廣 田 和 美
田 中 誠
小 湊 慶 彦
三 木 隆 司
南 學 正 臣
東 田 修 二
今 野 弘 之
木 村 宏
赤 司 浩 一
野 出 孝 一
細 井 裕 司
伊 東 秀 文
永 井 良 三
平 形 明 人
金 井 隆 典
小 風 曉
川 村 雅 文
木 下 浩 作
弦 間 昭 彦
浅 利 靖
岩 淵 邦 芳
笠 井 謙 次
岩 田 仲 生
木 梨 達 雄
松 村 到
酒 井 昭 典
大久保 力 廣
玉 置 幸 道
川 添 堯 彬
谷 本 幸太郎
西 村 英 紀
高 橋 裕
村 田 比呂司
西 村 正 宏

議長に委任した者（５名）

金沢大学医学類長	杉	山	和	久
山梨大学医学部長	小	泉	修	一
日本大学松戸歯学部長	福	本	雅	彦
東京医科歯科大学歯学部長	依	田	哲	也
大阪大学歯学部長	西	村	理	行

代理人に委任した者（１２名）

防衛医科大学校長	四ノ宮	成	祥	角	田	正	史
新潟大学医学部長	佐	藤	昇	岡	崎	史	子
京都大学医学部長	伊	佐	正	山	本		憲
岡山大学医学部長	豊	岡	伸	伊	野	英	男
順天堂大学医学部長	服	部	信	鈴	木		勉
東京女子医科大学医学部長	石	黒	直	柳	澤	直	子
明海大学歯学部長	申		基	星	野	倫	範
日本歯科大学生命歯学部長	菊	地	憲一郎	添	野	雄	一
日本大学歯学部長	飯	沼	利	黒	川	弘	康
松本歯科大学歯学部長	宇田川	信	之	藤	井	一	維
愛知学院大学医学部長	本	田	雅	森	田		匠
徳島大学歯学部長	馬	場	麻	大	原	直	也

議決権を行使した者（１９名）

旭川医科大学長	西	川	祐	司
秋田大学医学部長	羽	渕	友	則
富山大学医学部長	関	根	道	和
福井大学医学部長	藤	枝	重	治
大阪大学医学部長	熊ノ郷			淳
神戸大学医学部長	村	上	卓	道
鳥取大学医学部長	景	山	誠	二
広島大学医学部長	栗	井	和	夫
山口大学医学部長	篠	田		晃
香川大学医学部長	西	山		成
愛媛大学医学部長	羽	藤	直	人
高知大学医学部長	降	幡	睦	夫
宮崎大学医学部長	菱	川	善	隆
札幌医科大学医学部長	齋	藤		豪
名古屋市立大学医学部長	高	橋		智
東京医科大学長	林		由紀子	
東邦大学医学部長	盛	田	俊	介
東海大学医学部長	森		正	樹
昭和大学歯学部長	馬	場	一	美